

アシダカグモ

1年生の個別相談日5月13日の第2班、下校時のときのエピソード。一人の男子が、大きなクモを目ざとく(想像してから、意味を調べてみよう！ヒントは…漢字で書くと、目聡くです。)見つけてくれました！しかも、正確に「アシダカグモ」と名前を挙げ、その性質についても、よくご存じでした。

クモと聞くと、それだけで、えーっ、と毛嫌い(けぎらい 語源が面白いですよ。意味と一緒に調べてみよう。)する人も多いと思いますが、存外、役に立つ生き物です。ちなみに、クモは虫ではありません。(比べてみようクイズ！虫の足の数は、○本、クモの足の数は○本 正解…虫は6本、クモは8本です。)

さて、このクモは大型のクモで、一番わかりやすく、みんながイメージしやすいように例えれば、タランチュラっぽい感じでしょうか。でも、心配しないでください。毒はありません。夜行性のクモで、主に人家の暗い隅にひそみ、夜、ゴキブリなどを捕まえて食べるクモです。別名「家の守り神」(家を守り、その子がいれば幸せが訪れるといわれている素敵な妖怪は誰でしょう？…正解は、「ざしきわらし」です。)とも呼ばれています。巣を張らず、目の前に来た餌を捕まえて食べます。家からゴキブリなどがいなくなれば、静かに出ていく、そんな控えめなクモです。

ちなみに、私は昔、卵を抱えたこのクモのメスがまさに、クモの子を産むところを、偶然見たことがあります。たとえとしては知っていた「蜘蛛の子を散らす」(くものこをちらす…クモが苦手な人は、実際の光景は想像せずに、意味を引いたほうがいいかもしれません。)を、リアルで見て、まさしく！と大層感動した覚えがあります。

水辺に棲むクモは、上空の餌も、水中の餌も両方同時に見たいので、エイッと進化して、両方見られる目を手に入れました。生き物の世界は、兎角(何と読むでしょう？…答えは「とかく」です。「うさぎのつの」？見たことありますか？語源も調べてみてください。楽しいですよ。)かように面白い！です。

